

リスク管理のパラドックス

— テロ対策から原発事故まで —

藤原 帰一
(東京大学法学政治学研究科)

(1) 問題の所在

3. 11 東日本大震災

9. 11 同時多発テロ事件

- ▶ 予測されない災害 →→ 災害予測の放置
 - →→ リスク管理はなぜ失敗するのか
- ▶ 危機対応の不備 →→ 政策決定の不備
- ▶ →→ 危機管理をどう設計するか

(2) 現代社会におけるリスクと安全

(1) 「安全」の拡大 (ウィーバー)

軍事から運輸・医薬など他の行政分野へ
安全保障化(securitization)

(2) 脅威の変化

グローバル化・分業化と複合的脅威
脅威認識の主観性・状況依存・可変性

(3) リスク社会の成立 (ベック)

給付の政治からリスクの政治へ
利便性の拡大とリスクの拡大

(3) 四つの問題

- | | |
|---------------|-----------|
| (1) 脅威の拡大と拡散 | どの脅威を選ぶのか |
| (2) リスク管理のコスト | 過小評価の合理性 |
| (3) 危機管理と民主政治 | 効率と民主主義 |
| (4) 事件後のリスク評価 | 安全確保の代償 |

(4) 危険を選ぶ その1

どのリスクに対処し、どのリスクを甘受するか

- (1) 0.01%の確率で500億円の損害が生まれること
が見込まれる。
- (2) 1%の確率で、5億円の損害が生まれることが見
込まれる。
- (3) 10%の確率で、5千万円の損害が生まれること
が見込まれる。

(5) 危険を選ぶ その2

- (1) 0.01%の確率で、500億円の損害が生まれることが見込まれる。そのリスクに対処するためには、50億円の費用が必要となる。
- (2) 1%の確率で、5億円の損害が生まれることが見込まれる。そのリスクに対処するためには、5000万円の費用が必要となる。
- (3) 10%の確率で、5千万円の損害が生まれることが見込まれる。そのリスクに対処するためには、500万円の費用が必要となる。

(6) 危険を選ぶ その3

- (1) 0.01%の確率で、100万人の生命が脅かされている。そのリスクに対処するためには5兆円の費用が必要となる。
- (2) 1%の確率で、1万人の生命が脅かされている。そのリスクに対処するためには500億円の費用が必要となる。
- (3) 10%の確率で、1000人の生命が脅かされている。そのリスクに対処するためには50億円の費用が必要となる。

(7) リスク管理のジレンマ

- (1) リスク管理は選択肢を残す
 - (2) 被害の規模か、被害発生確率か
 - (3) 対策コストがリスク管理を歪める
 - (4) 事件前の過小評価・事件後の過大評価
- 

(8) セキュリティの政治

(1) 安全保障化 事件発生と優先順位の上昇

(2) 政府の役割の拡大

企業→政府 自治体→政府

(3) 安全確保の経済効果

高コスト経済・高価格／増税

(4) 脅威序列の固定 他の脅威にどう対処するか

(9) アメリカ 危機管理の過剰

▶ 危機管理に適合した政治

- ▶ 大統領府と省庁の二元体制
- ▶ 連邦政府と州政府の二元性

▶ 大統領指令による危機管理

- ▶ 連邦政府指定と行政命令
- ▶ 大統領裁量による予算分配

▶ 制度の危機

- ▶ チェックアンドバランスの不在
- ▶ 少数者による決定と政策の失敗

(10) 日本：危機管理の不在

▶ 行政府の分権的性格

縦割り行政 課長のハンコだけ政府がある
省庁横断行政の弱さ 復興庁の問題

▶ 首相権限の弱さ

首相官邸の弱体性 組織／情報収集
官房長官は報道官か？

(11) 福島事故と政策決定

▶ 菅政権と原発事故

- 政権の特性 ポピュリズム・行政不信・個人的リーダーシップ
- 原発事故の安全保障化
- 分権秩序との軋轢 官邸主導と経産省・保安院・東京電力
- 菅首相排除の政治過程へ

▶ 野田政権における転換

- 財政危機の安全保障化
- 原発事故の非安全保障化
- 自治体首長との協議による打開

(12) 危機管理と民主政治

- (1) 効率と民主主義のジレンマ
目的合理性と手続きの合法性
- (2) 非常時体制と権限集中
チェックアンドバランスの不在
- (3) 少人数による短期の決定
政策選択の誤謬
- (4) 危機管理の脅威・危機管理不在の脅威